

事後評価報告書
(日本-EU「環境」領域)

1. 研究課題名: 「工業用ナノ粒子の健康および環境における潜在的リスク管理に関する研究」

2. 研究代表者名:

日本側: 独立行政法人物質・材料研究機構、先端的共通技術部門先端材料プロセスユニット、
グループリーダー 宮澤 薫一

相手側: Institute of Occupational Medicine (UK), Head of Toxicology Section, Principal
Researcher Lang Tran

3. 総合評価: (A)

4. 事後評価結果

(1) 研究成果の評価について

金属触媒を含まない純炭素ナノ材料(フラーレンナノウィスカー(FNW))を作製する技術を開発し、カーボンナノチューブ(CNT)にかわるナノリスク評価用標準物質としての研究を行い、EU との研究交流により、酸化シリカナノ粒子を用いてマウスへの生体へ与える影響を明らかにし、研究成果を論文、国際会議等で適宜発表する等、目標を十分達成していることは高く評価できる。一方で、相手側はEU のナノリスク評価プロジェクト(MARINA)の主査であり、このプロジェクトとの連携の相乗効果が一つのテーマとなっていたことから、報告の中でその点をより明示的に示すことが望まれる。

(2) 交流活動の評価について

EU の MARINA は EU の44機関が参画し、18サブテーマがある巨大コンソーシアムとある。双方ともに、数多くのミーティングや人材交流を実施しており、国際的なネットワーク構築という点から将来的にも極めて重要な成果となったと評価する。その一方、殆どの出張がミーティングや学会参加であり、研究者の派遣を双方で行い実験を進める等の長期交流の実績があればなお良かったと思われる。

(3) その他

本研究交流を通して、日本国内で開発した標準物質が EU 等で利用されることが期待でき交流の成果から発展性が期待される。本研究交流は情報交換を主体とするものであったが、本研究に関わった海外の研究者が日本に、日本の研究者が海外に渡って研究を続ける予定であり、今後の研究の更なる進展につなげて欲しい。